

・おやつの特

果物がうれしい。ヨーグルトやヤクルトとかもあり、とてもよい。

・指導員の先生の専門性

・けがをした時適切に対応してくれる

・子どものことについて「子どもを見守ってほしい」と言うと、対応していただける。

・〇〇くんと〇〇さんはケンカが多い。その辺を采配してくれる。

・いつも子どもの様子を教えてくれる。

・先生がドッジボールの審判をされながら、「あの子が危ない」など指摘をされていた。常に目配せをされている。そのことを見たら、日ごろからよく子どものことを見ていただいているのが分かる。子どもが安心して預けられる。

・例えばけん玉においても、強制ではなく子どもたちの自主性を尊重して、決して押し付けない。自然と子どもが夢中になる仕組みを作ってくれている。コマやけん玉で子どもに挑戦する能力を意図的に企画されている。保護者としてみていたら、トラブルがあった時も双方の話を聞いて子どもたちで解決できるように後ろで見守っていただいている。どのようにしたら解決するのか、子どもの成長を考えながら取り組んでおられる。

・家ではけん玉やコマなど教えることができないので、昔遊びを教えてもらえてとてもありがたい。子供を安心して預けることができる。

・安心感のある指導員の先生方、子どもや保護者にも親身になって接していただけた。経験豊かで安心して預けられた。けん玉やコマも外遊びもできた。

・分室に分かれる時の説明会で、保護者は反対だったが指導員の先生から「他の分室では、分室ができてすごく安心できた。分かれた方が良い」とご経験から話されたことが印象に残っている。結果的にはよかった。

・お迎えに行ったとき、必ず子どもの様子を教えてくれて安心して預けることができた。

・指導員の先生がすばらしい。やる気を出させ、上級生に責任を持たせて、トラブルの仲裁もされている。

・かまぼこ板一つで熱中させる。けん玉やコマ回しもよかった。勤労感謝の日のプレゼントもよかった。

・5年生の子は今でも学童に通っている。学童が大好き。先生の経験が大きく、

子どもの性格を分かったうえで接してくれている。まさに居場所である。子どもが問題を起こしても、一人の個人として子どもを見ていただき、どのように成長させるかを考えていただいている。

- ・子どもが悪いことをしても、必ず話し合いの場を持たせてくれる。閉室の時間まで子どもは学童にいたいと話している。
- ・指導員の先生がすばらしい。かまぼこ板一つで子どもをあれだけ熱中させるのはすごい。上級生には上級生としての責任を持たせ、行事も楽しんでいた。けん玉やコマ回しなども経験できたのが良かった。かまぼこは家で一人でやっていて、家で母親相手にやっていた。けん玉やコマも子どものやる気を引き出していた。
- ・家でできないことを学童ではやってくれている。学校ではない教育の場である。下の子は一年生ですが、より細かく見ている。
- ・「早く迎えに来るな」というくらい学童が好きで、やりたいことをうまく引き出してくれる。人として育ててもらえる学びの場である。
- ・児童会の先生のよいところは、ご指導をいただいている先生方の存在だと思います。全体に児童の性格や個性を把握してくれているので、安心して子どもたちを願うことができます。

・学校との連携について

教室に忘れ物をしたとき、取りに行っていただけたりしている。

子どもの様子についても、常日頃から連携をしてもらっている。

学校と学童の先生で引継ぎがうまくできている。学童ではどの先生も声をかけてくれる。ベテランの方ばかりなので、子どもの持ち上げ方もうまい。放課後等デイサービスは職員の出入りが多くバイトも多い。コロナの時は、放課後デイはしぶしぶだった。オンラインも言われたが、そんなことできるのか。

イレギュラーな時に力を発揮するのが直営のよいところである。

融通が利く。

父母会について

- ・人と人のつながりを感じる。父母会を通してつながることができる。なので父母会も面倒だがやってよかった。

・放課後指導会の体制について

学校では1年で担任の先生が交代しますが、学童は長年指導をされるので、子どものことを先生が知ったうえで指導をされている。なので安心して預けられる。民間委託されて時間つぶしになったら困る。

父母会の行事の時に、

ふだんから指導員の先生が「学童は第二の家」と言われている通り、「おかえり」から始まる教育である。連携が求められる社会の中、民間委託で切り離される。いきいきランドや星の里いわふねではあるまいし、民間委託はなじまない。

他市の職場の人は「指導員の先生が荒っぽくて、行くのを嫌がっていた」と話している。

指導員の先生も「若けりゃいい」ということではない。応募がないのは労働条件が悪いから。見合った勤務条件であれば応募がある。経験がものをいう職場。校務職場なので応募はあるはず。

民営化して人が足りるのは、ありとあらゆる手段を使って、短時間勤務も多用しているからである。メインの先生がいるからよい。

交野市の学童を「当たり前」のものとして利用しているの、それがなくなった時が不安。

家庭的な雰囲気の中、放課後児童会は今後も残してほしい。

・子ども同士のかかわりについて

・初めて学童に子どもを預けた時不安だったが、上級生にかわいがってもらってスムーズに学校生活を送ることができた。学年が上がると逆に我が子が小さな子のお世話をしている。

代々と受け継がれている伝統である。「学年を超えたつながり」である。

遊びについて

今あそび場がない。

・ボール禁止・静かに 特に地域柄大きな公園もなく、うるさいといわれる。

その点学童は思いっきり遊べる。

子どもを安心して預けられるところが良い。先生は子どもの様子を報告してくれ、何かあればすぐに対処してくれる。けん玉やコマなど昔遊びも取り入れてく

れている。

昔遊びの検定でスモールステップで目標に向かって頑張る。

広いグラウンドで体を動かすことができる。

また昔遊び（けん玉やコマ）など、自分では教えることができないような遊びを教えてくれたり、お店屋さんごっこやお誕生会など集団でしかできない行事もさせてくれたり、いい経験をさせてもらっていると思います。

児童会での班は、縦割りの班なので、学校とは違う交流があるのもいいと思いま

障害のある子どもについて

障害のある子どもに加配の教員をつけてもらって活動をしてきた。就学前には身辺自立と食事ができるようにと言われた。中々なり手がなく、辞められる指導員が多い中、加配の先生としてベテランに来ていただいた。子どもは変化に敏感でふだんつかっている支援学級を、学童でも使用させてもらったが、泣いて入らなかった。加配の先生が暑い中ずっと付き添ってもらい、手厚くやっていただいた。シールで励ましたり、自宅から私物のおもちゃを持ってきていただいた。カードを作ってもらったりした。

そのおかげで楽しく過ごしている。放課後デイサービスは子どもどうしのつながりがない。学童では、他学年の子どもとつながりがあり、自然な流れで付き合いをしてもらっている。

得意なことを伸ばそうとしてくれていて、親身なって向き合ってもらっている。そのおかげで小1から発語が増え、今では意思疎通が取りやすくなってきた。学年を超えた子ども同士のつながりが持てるように育てていただいている。

生活リズムについて

宿題、遊び、おやつなど生活のリズムが規則的なので、行動の切り替えが早い。親として安心である。

集団生活の中、上級生下級生と接する中で、自分のふるまい方が分かる。